「いしかわの漁民の森を守って」
－継続は力なり！－

珠洲漁業士会
寺　山　一　男

1．地域の概要

能登半島の最先端に位置する珠洲市は、昭和29年に8町村が合併してスタートした（図 1)。三方を海に囲まれ、主要な産業は農林水産業となっている。少子・高齢化が進んでおり、市がスタートした昭和29年の人口が約39,000人であったが、平成18年には18,900人と半減し、平成20年7月の推計人口では16,800人になった。また、65才以上の高齢者が37％を超えている。

しかし、珠洲市は「日本海側の外浦・富山湾側の内浦、それぞれ特有の美しい海岸線」や「奥能登丘陵の森林」、「珪藻土」などの自然資源をはじめ、「燈籠山（とろやま）まつり、寺家の日本一の大キリコ、あえのことなどの伝統的祭事」や「海山、田畑の食文化」、「能登杜氏の醸造文化」、「半島の自然と共生した暮らし」といった文化資源など、豊かな地域資源を有している（写真1)。

この他に「珪藻土コンロ」のような、この地区独特の工業も営まれている。これらの産業と観光を組み合わせて街興こしを行っている。

図1　珠洲市の位置

写真1　寺家の日本一の大キリコ

2．漁業の概要

漁業は拠点漁港でもある「蛸島(たこじま)漁港」をはじめとして「真浦(まうら)」、「長橋(ながはし)」、「狼煙(のろし)」、「寺家(じけ)」、「小泊(こどまり)」及び「鵜飼(うかい)」

の各漁港、港湾では「飯田(いいだ)港」を有し、合計約460隻が所属している。

平成18年の水揚げ量は約8,300トン、水揚げ高は約30億円であった。主な漁業種は、まき網、イカ釣り、定置網、底曳網で、漁獲量の90%を占める。(図2)。この4漁業種は漁獲金額で見ても主要な漁業種であり、合計の金額は全体の 80%以上を占める。主な対象魚種はアジ、サバ、アマエビ(ホッコクアカエビ)、ニギス、ハタハタ、イカ等である。

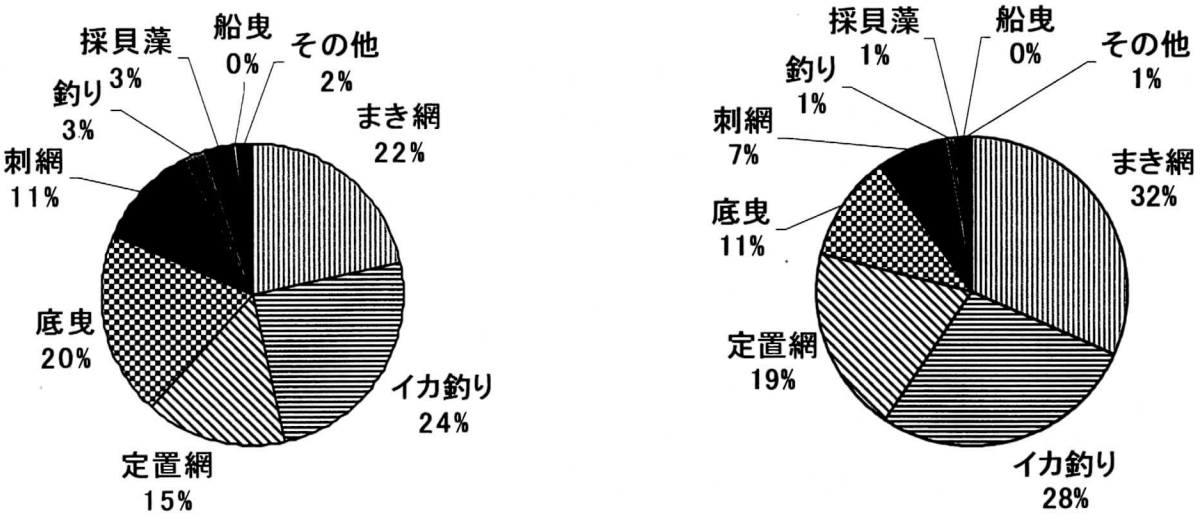

図2　水揚げ量(左)と水揚げ高(右)の漁業種別割合

3．グループの組織と運営

珠洲漁業士会は、平成11年に結成され、珠洲市および隣接する旧内浦町の漁業士18人で構成されている。役員は会長以下、副会長1名、理事2名であり、活動経費は各会員2,000円の会員費などで賄っている。

活動内容は、地曳き網体験を通した青少年との交流や、海岸清掃、そして漁民の森の下草刈り等である。特に下草刈りは、漁業士会の設立当初から熱心に取り組んでおり、その内容を今回発表する。

また、県漁協珠洲支所の職員が書類作成等の事務作業の補助を行っている。

4．実践活動の動機

私たちが普段漁を行っている珠洲市の海では、平成9年の年明け早々に惨事があった。日本海でロシアの重油船ナホトカ号が沈没したことで、大量の重油が漏れだし石川県の至る所に漂着した。最初に重油が漂着してから1週間のうちに、石川県の海岸線のうち、4割以上に油が漂着した。

珠洲市も例外ではなく、海岸によっては重油で浜が埋め尽くされた。私たち漁業者や県内外からのボランティアの方々の協力により重油はほとんど取り除かれたものの、こ

の海を再び豊かな海に復活させ、守っていかなければと、環境保全の意識が高まった。何か打つ手をと考え、思いついたのが漁民の森の整備・管理だった。

油が漂着した片岩海岸の背後の山中では、前年に、全国豊かな海づくり大会の一環で植樹が行われていた。樹種は、落葉樹のケヤキで 600 本を植えた。落葉樹の森では、落ち葉が地表を覆うことで、土砂の流出防止効果や、流量を調節する効果が期待できる。また、落ち葉が分解されれば、川や海の植物の栄養源になり、分解されずに海に流れ着けば動物プランクトンの餌になるとも言われている。私たちは、この漁民の森を大事に管理し育て、再び豊かな海を取り戻そうと決意した。

5．実践活動の状況・成果（効果）

まず、植えたケヤキが順調に育ち、魚付き林として成長するために何が必要かを考えた結果、下草を毎年刈ることで、ケヤキに十分な日光と栄養分が行き渡るように管理することが重要だと思った。そこで、珠洲漁業士会の結成当初からケヤキの森の下草刈りを地道に実施している。毎年 100 人前後の参加がある(図 3)。参加者は森と海との繋がりを広く理解してもらうため、関係団体から広く募っており、漁業者に加え、漁協職員、中高生、県・市町職員など多岐にわたる。今年は地元の緑丘中学が加わり、従来の平均を大きく超える 147 名で下草刈りを行った。

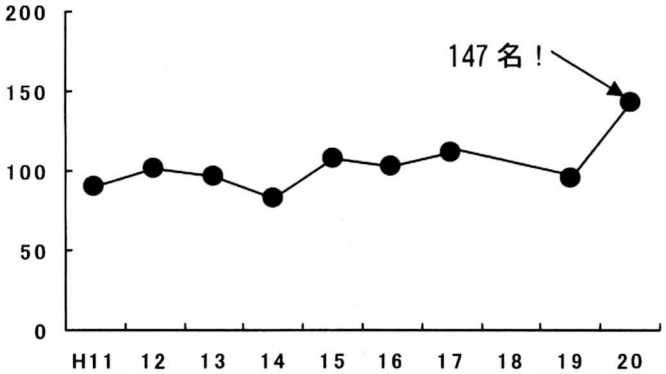

図 3　下草刈りの参加者数

作業中の安全管理には大変気を使っている。怪我など大きな事故が起こると、下草刈りが途絶えてしまうからだ。植樹した場所は非常に急斜面であることに加え(写真 2)、斜面の上方へ向かって刈り取った草の上に乗りながら進むため、作業中は非常に滑りやすい。その為、作業当日が雨天であった場合は中止としている。実際に平成 18 年度は作業を中止した。また、前日に雨が降った場合にも下草が水分を含んでいると考えられ、作業前の声掛けを徹底している。

他には、より多くの人が下草刈りに参加しやすいよう、事前に漁民の森近くの草刈り

写真 2　急斜面の作業現場

写真 3　大きく育ったケヤキ

を行い、駐車スペースを確保するようにしている。

植樹から 10 年以上経過した現在、ケヤキは人の背を大きく超えて成長し、今後も成長を続け、立派なケヤキの大木の森ができることを期待している(写真 3)。

6．波及効果

下草刈りには漁業者の孫も、地元の中高生として参加しており、世代を超えた交流が行われるようになっている。また、私達の取り組みは地元の新聞にたびたび取り上げられ、漁業者が熱心に環境保全活動に取り組んでいることを理解してもらっている。さらに、下草刈りを行うことで、漁業士会員の環境保全意識はますます高まり、毎年 7 月 20 日(海の日)に蛸島港や飯田港など自宅付近の漁港清掃を行うようになった。

本年の 4 月には、これまでの活動が評価され、いしかわ森林環境功労者知事賞を受賞した。私たちの地道な活動が評価されたことに喜びを感じるとともに、今後も地域を率先して環境保全活動を続け、豊かな海を維持していこうと励みになった。

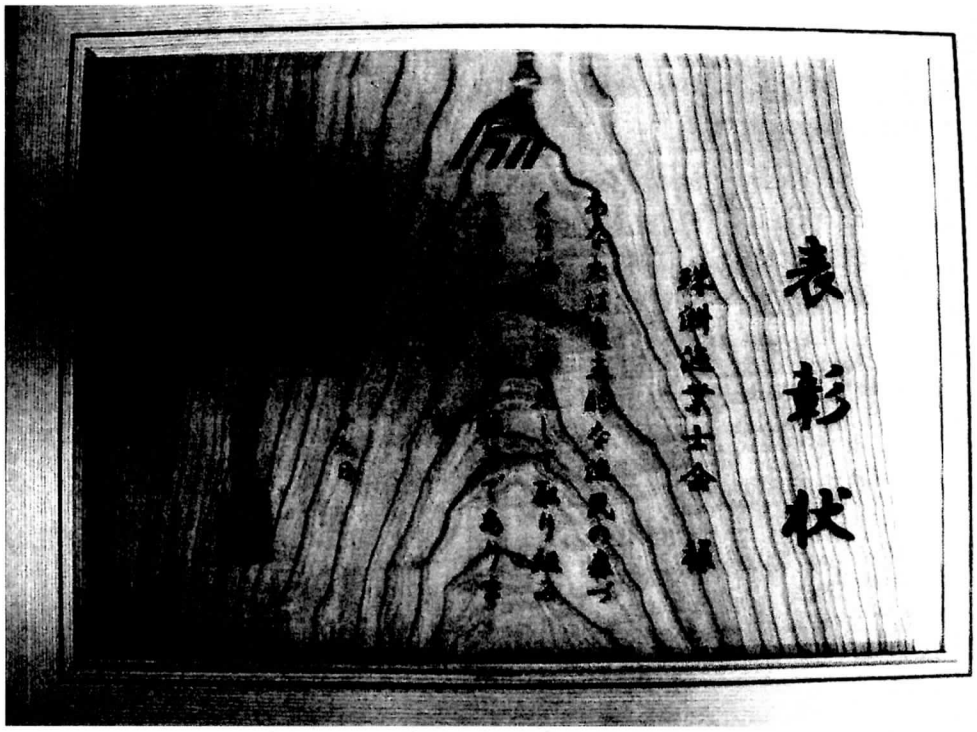

写真 4　知事賞表彰状

7．今後の課題、問題点

すでにケヤキが大きく成長してきており、今後も下草刈りを継続するためには環境保全意識をさらに高めていく必要がある。今回の知事賞の受賞を励みに、今後も地道な活動を続けていきたい。

また、能登の漁業後継者を確保するためにも、地曳き網教室の対象を広げるなど、漁業士会の活動をさらに活発化させることで、青少年が魚や漁業に触れる機会を増やしていきたい。そうすることで、魚を好きになってもらい、ひいては将来の漁業者確保につなげたい。